

## ◆ 今週のコメント

- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.00(41例)で、先週に比べ増加しています。第4週から連続して過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、5歳(10例)、2歳(9例)、4歳(7例)の順で、2歳～7歳が90.2%(37例)を占めています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.07(3例)で、第34週(8月23日～29日)以降連続して報告があります。全国の定点当たり報告数は、0.35で過去5年平均値(0.17)を大きく上回っています。例年12月頃に流行のピークを迎えますが、今年は例年より早く患者数の増加が始まっていますので、今後の動向にご注意ください。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、0.54(22例)で、3週連続して増加しています。年齢階級別にみると、4歳が7例(31.8%)と最も多く、次いで6～11箇月と1歳が各4例(18.2%)となっています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数は、0.51(21例)で、先週に比べ増加し、過去5年平均値(0.33)を上回っています。

## ◆ 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.34(14例)で、先週に比べ増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

ありません

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.04	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.32	95
	② 流行性耳下腺炎	1.00	41
	③ 水痘	0.54	22
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.51	21
	⑤ 伝染性紅斑	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

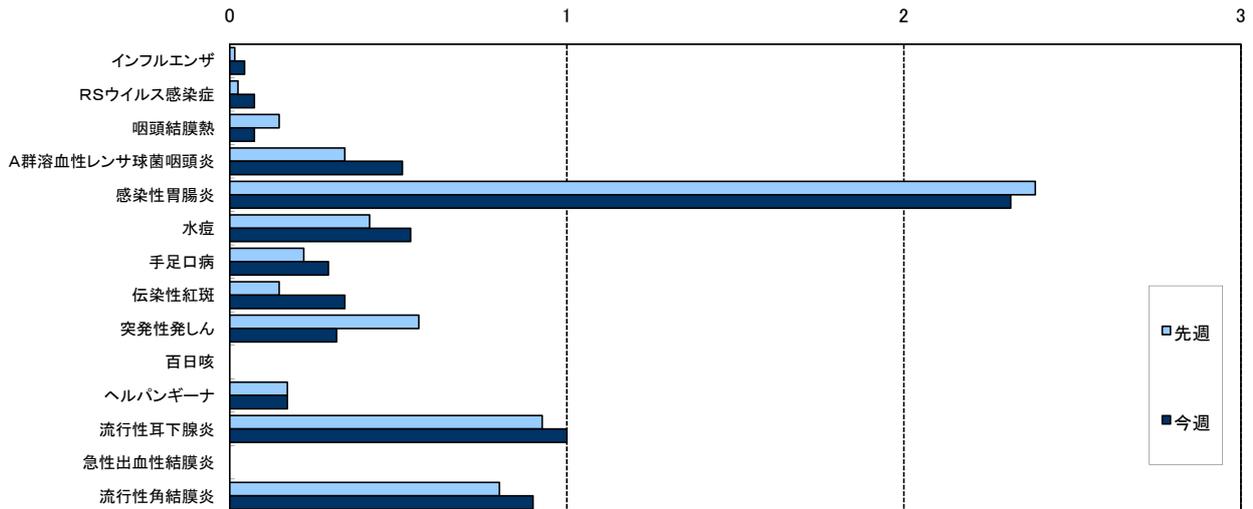
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

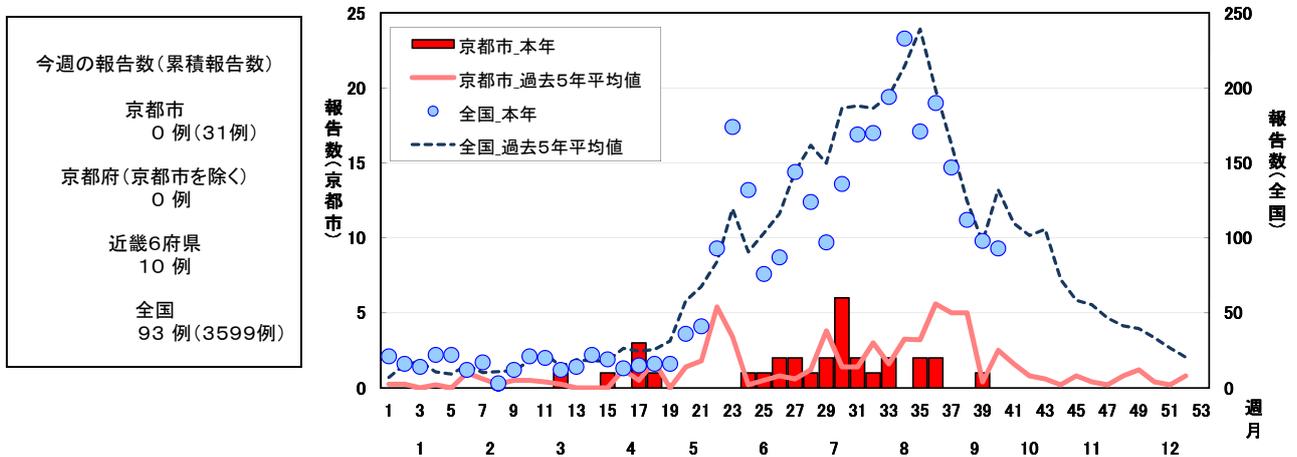
(注) 京都市のデータは、平成22年10月14日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第40週)と先週(第39週)の定点当たり報告数の比較

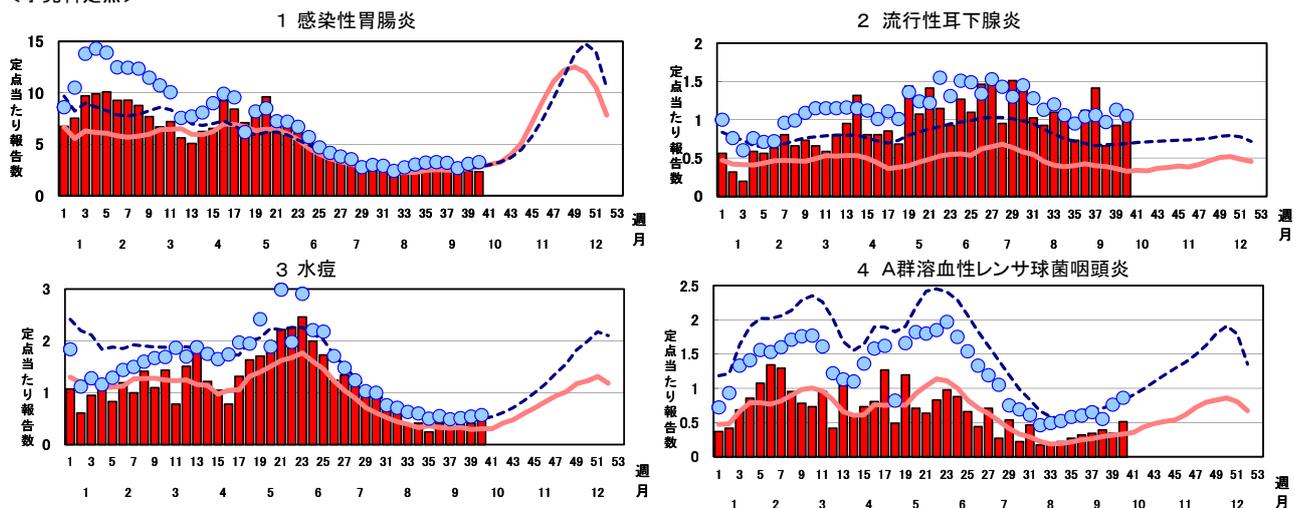


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

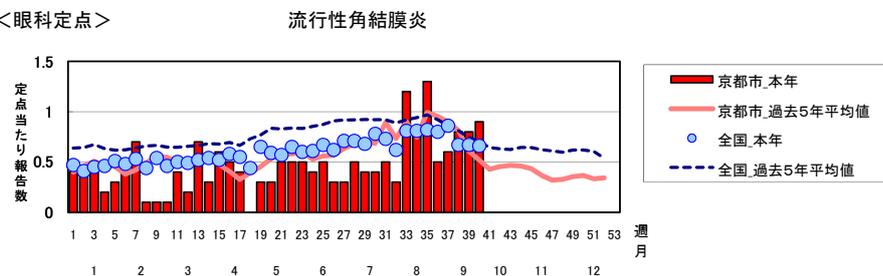


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

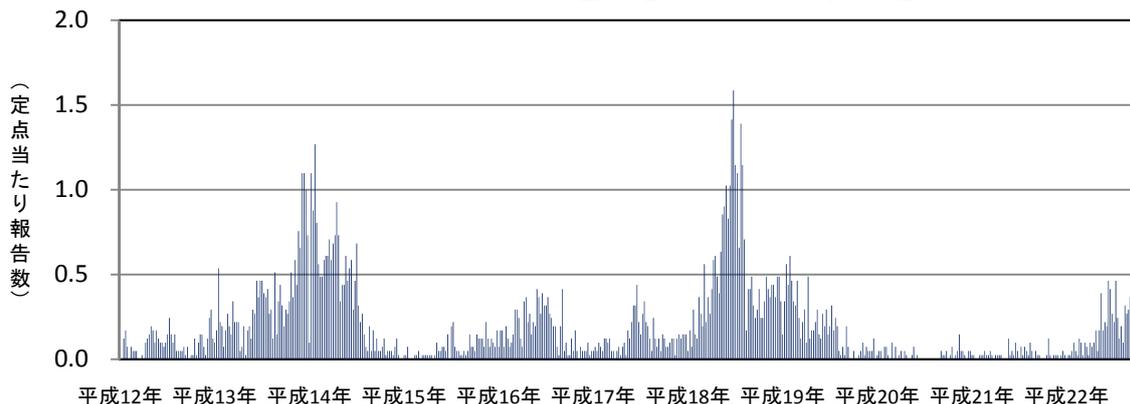


## 第40週(10月4日～10月10日)トピックス: <伝染性紅斑>

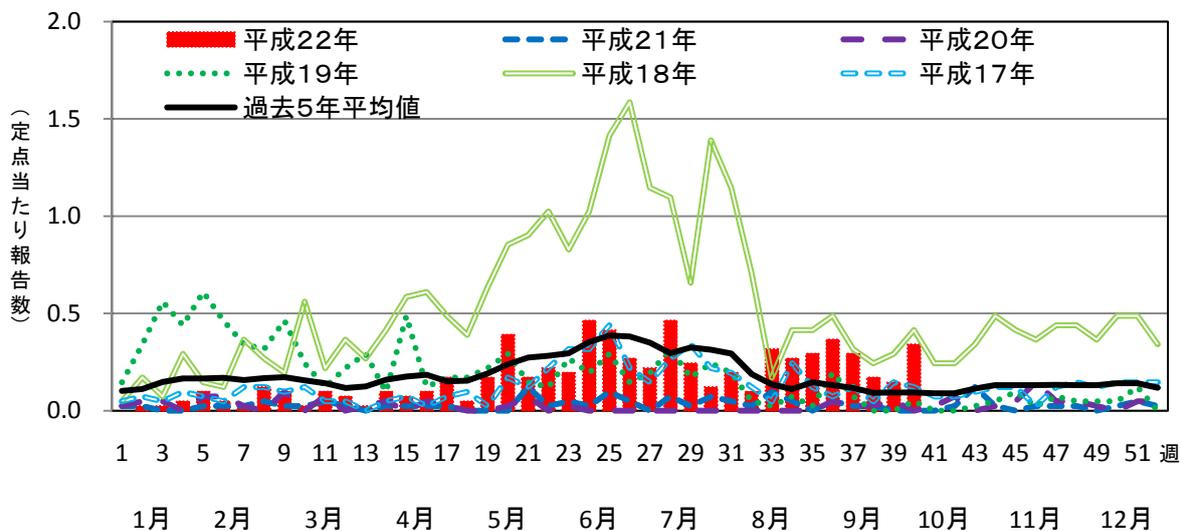
伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.34(14例)で、先週に比べ増加しています。過去10年間の定点当たり報告数の推移をみると、数年おきに多くなっています。平成18年には、5月～8月に大きなピークが見られ、平成19年4月頃まで、報告数が多い状態が続いていました。平成20年と平成21年は報告数が少なくなりましたが、本年は、5月～7月に報告数が多くなり、第33週(8月16日～22日)から再び増加し、過去5年平均値を上回る状態が続いていますので、今後の発生動向にご注意ください。

年齢階級別にみると、7歳と8歳が各3例(21.4%)と最も多く、5歳～8歳が71.4%を占めています。

平成12年～平成22年第40週の定点当たり報告数の推移



平成18年～平成22年第40週の定点当たり報告数の推移



年齢別定点当たり報告数の推移

